

第2回アレルギー疾患対策推進協議会（平成28年2月12日）

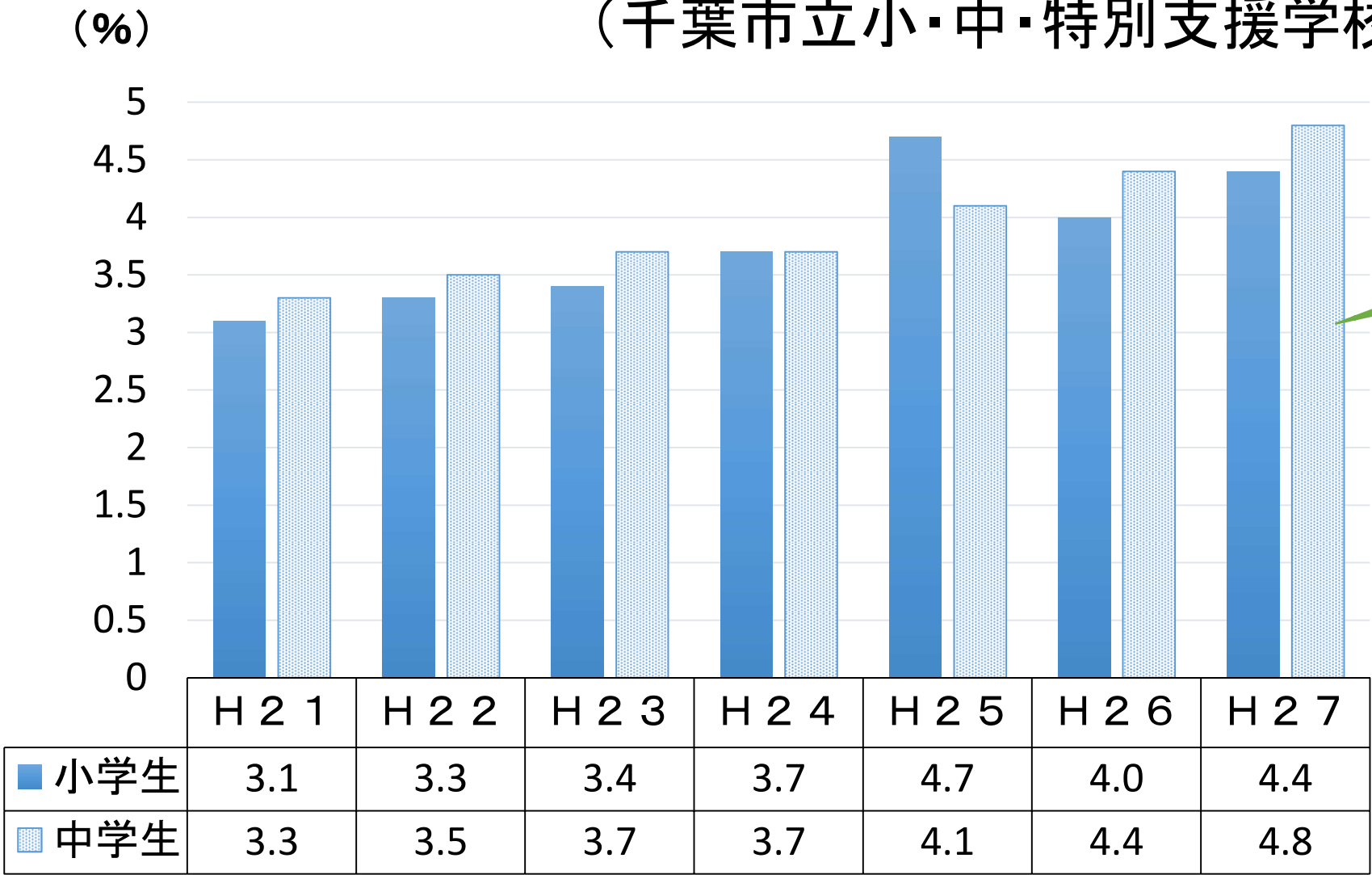
学校における 食物アレルギー対応の現状と課題

千葉市教育委員会保健体育課

指導主事 岸平 直子

食物アレルギーのある児童生徒の状況

(千葉市立小・中・特別支援学校)



平成27年度
小学生 2,196人
中学生 1,183人

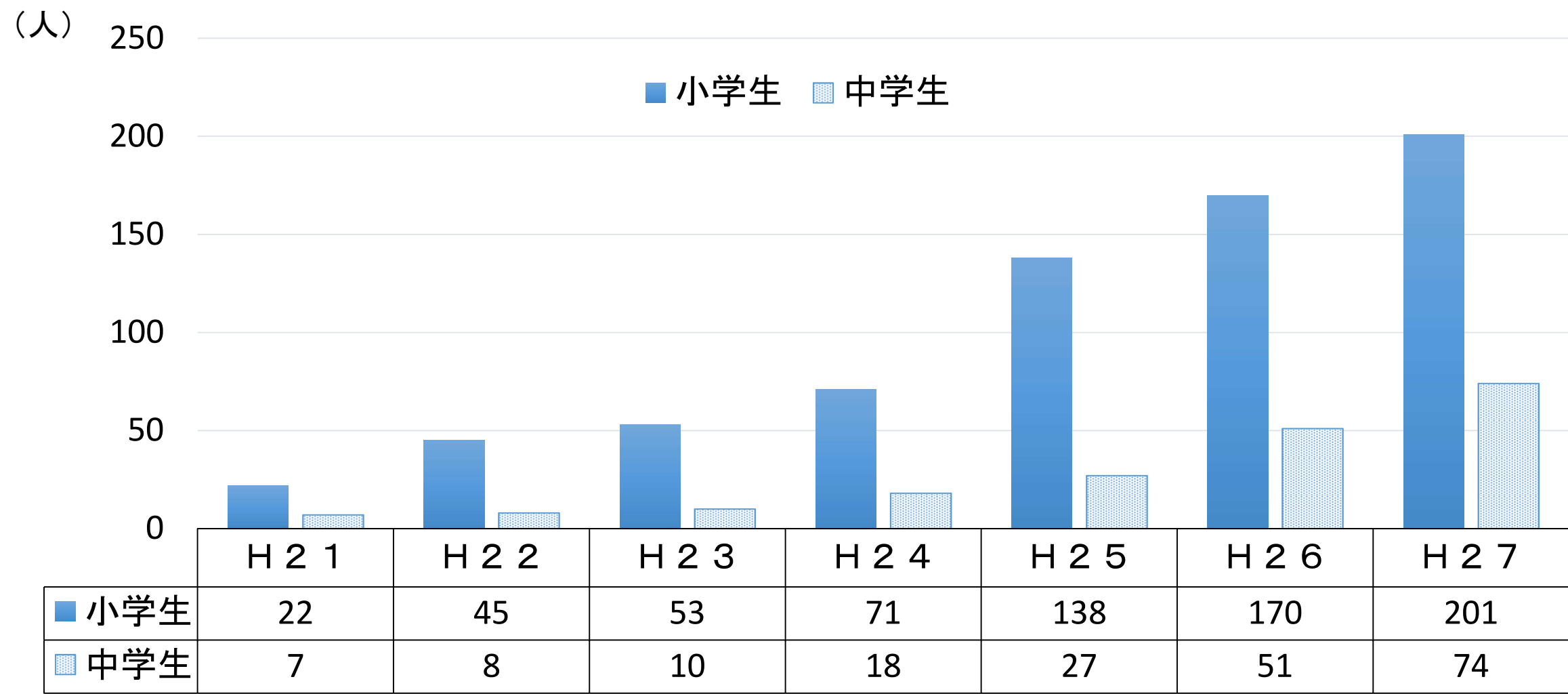
平成27年度
学校数・在籍数
(平成27年5月1日現在)

小学校(112校)49,857人
中学校(55校)24,539人
特別支援学校(3校)335人

■ 小学生 ■ 中学生

(平成27年度 千葉市保健統計調査より)

アドレナリン自己注射薬を処方されている児童生徒の状況



(平成27年度 千葉市学校保健統計調査より)

千葉市における食物アレルギー対応



平成23年度 食物アレルギー対応検討会

平成24年度 食物アレルギー対応協議会

平成24年2月 手引き第1版 発行
(毎年データ更新、一部修正)

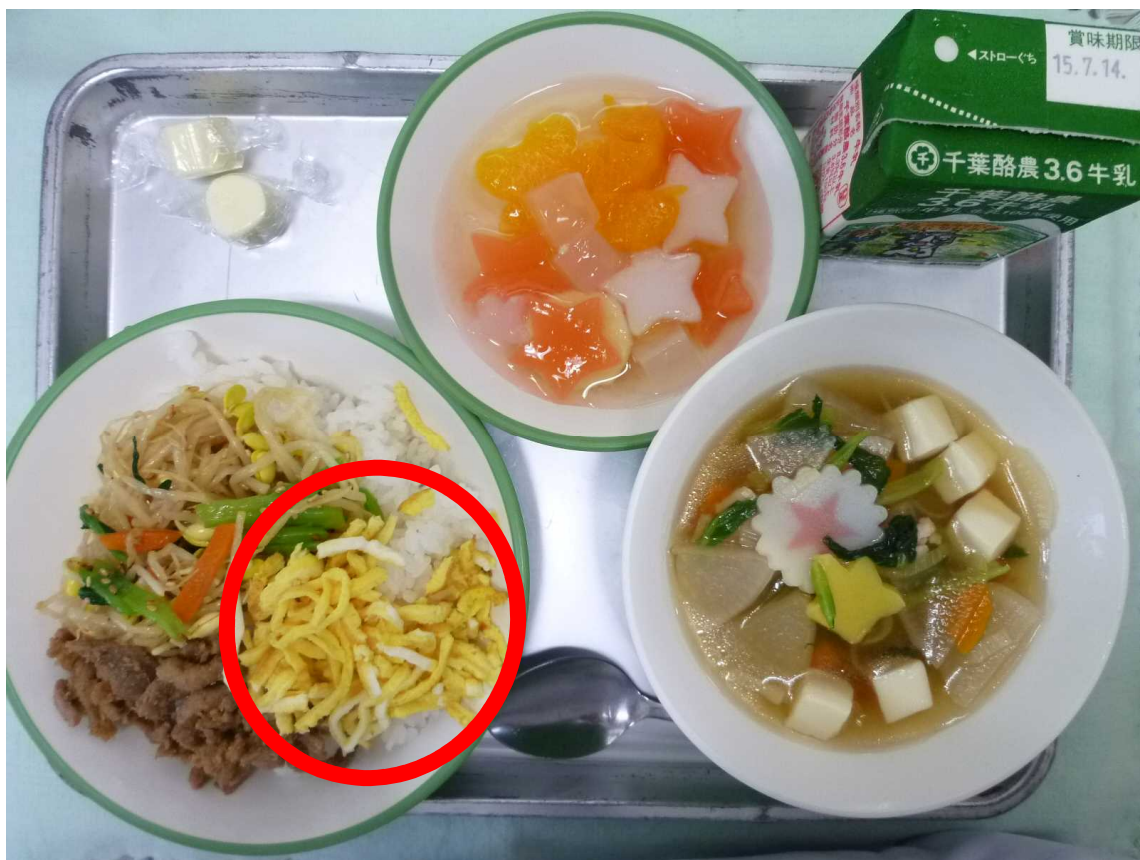
平成28年3月 第5版 発行予定

- ・対応のフローチャート
- ・給食における対応
- ・学校生活における対応
- ・緊急時対応マニュアル
- ・資料、様式集 等

学校給食における食物アレルギー対応

小学校(自校式)

- ・給食室で除去対応

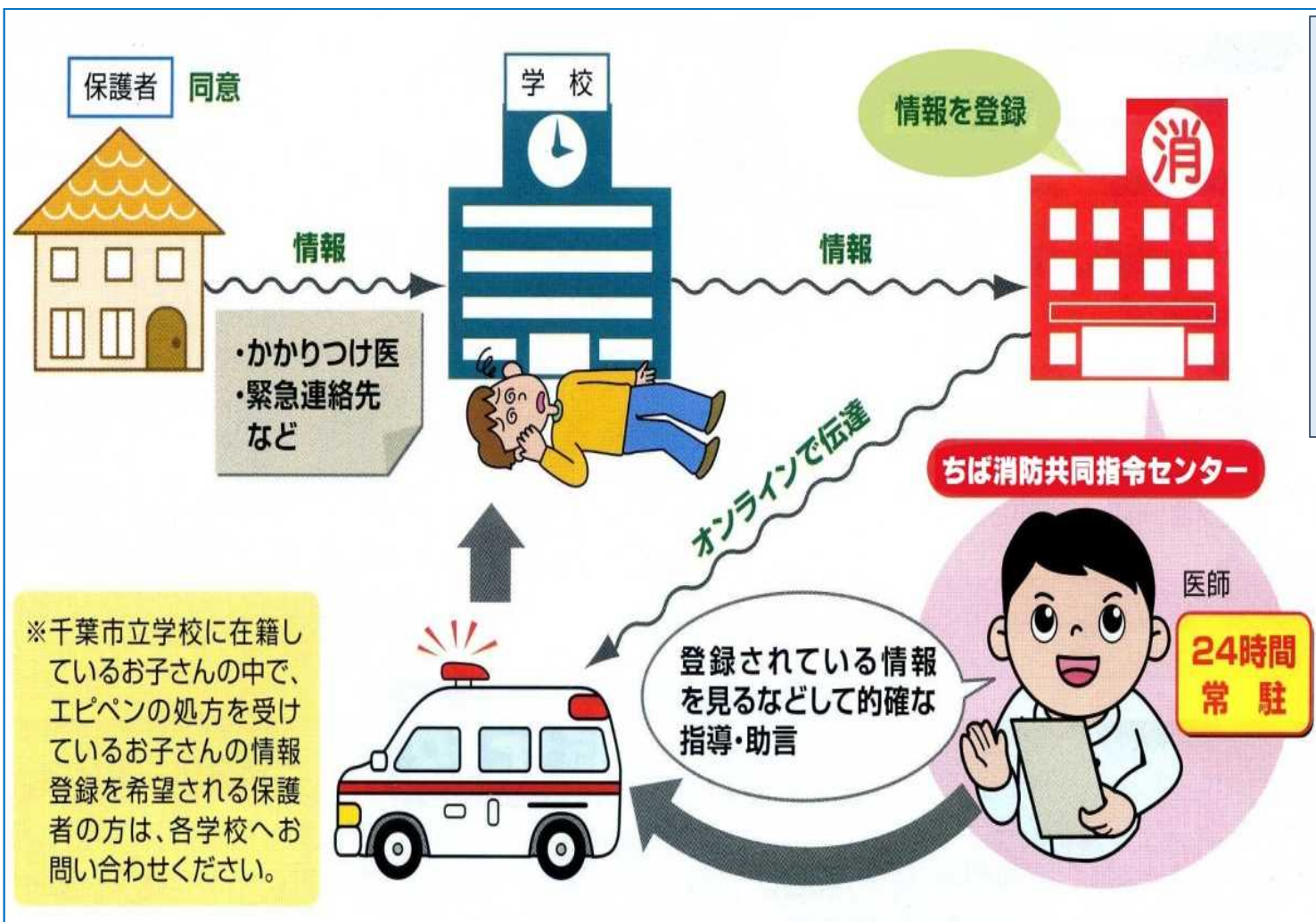


中学校(給食センター方式)

- ・詳細な献立表で確認し、自己除去



消防機関との連携について（平成21年10月から運用開始）



アドレナリン自己注射薬を所持している児童生徒が在籍している学校と消防局が情報を共有し、救急搬送時に迅速かつ適切な対応を図る。

主治医への搬送ができない場合に受入れ可能な医療機関

- ・千葉大学医学部附属病院
- ・千葉県こども病院
- ・千葉市立海浜病院
- ・千葉市立青葉病院

学校からの救急搬送事例(千葉市立小・中・特別支援学校)

	25年度	26年度	27年度 (H28.1月末)
搬送件数	9	7	7
小学生	7	5	6
中学生	2	2	1
エピペン接種	4	3	1
初発事例	3		
情報登録者の 搬送	2	4	1

(千葉市立小・中・特別支援学校食物アレルギー救急搬送報告書より)

平成27年度 職員研修実施状況

	研修実施校	実施率(%)	エピペン講習 実施校
小学校(112校)	105	93.8	93
中学校(55校)	49	89.1	48
特別支援学校(3校)	3	100.0	1

アドレナリン自己注射薬を所持している児童生徒が在籍している学校
小学校79校、中学校34校 → すべての学校でエピペン講習を実施

(平成27年9月 千葉市教育委員会保健体育課調査より)

文部科学省から配布された(平成27年3月)資料の活用

学校における アレルギー疾患対応資料

映像資料 全編再生

▼チャプターを選ぶ

1. エピベン®の正しい使い方
2. 救急要請のポイント
3. ミニドラマ：適切に対応できなかった例
4. ミニドラマ：適切に対応できなかった例（ふり返し用）

研修資料

1. 学校におけるアレルギー疾患対応の基本的な考え方
2. 食物アレルギーに関する基礎知識
3. 学校生活上の留意点（食物アレルギー・アナフィラキシー）
4. 緊急時の対応

PDF資料

1. DVD資料を活用した研修の進め方 (01.pdf)
2. 研修資料1～4 (02_01.pdf～02_04.pdf)
3. ガイドライン要約版 (03.pdf)
4. 学校給食における食物アレルギー対応指針 (04.pdf)

PDF資料はパソコンでのみ、ご覧いただけます。エクスプローラーでマイコンピュータのDVDドライブを右クリックで開き、ディスクのルートディレクトリ上にある「PDF」フォルダの中の、PDFファイルをご覧ください。

緊急時の対応

発見者＝観察

子供から離れず観察

助けを呼ぶ

緊急性の判断

エピベン®、AEDの指示

アレルギー症状がある
(食物の関与が疑われる)

原因食物を食べた
(可能性を含む)

原因食物に触れた
(可能性を含む)

呼びかけに反応がなく、
呼吸がなければ心肺蘇生

緊急性が高いアレルギー症状があるか、5分以内に判断

全身の症状

くったり

意識もうろう

尿や便を漏らす

顔が腫れにくい

唇や爪が青白い

＜緊急性が高いアレルギー症状＞

呼吸器の症状

のどや胸が締め付けられる

声がかすれる

犬が吠えるようなせき

息がしにくい

持続する強いせき込み

ゼーゼーする呼吸
(ぜん息発作と区別できない場合を含む)

消化器の症状

我慢できない腹痛

繰り返し吐き続ける

これらの症状が一つでもあれば

○救急車を要請(119番通報)

○ただちにエピベン®を使用

○反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う → AEDの使用

○その場で安静にする **立たせたり、歩かせたりしない!**

くったり、意識もうろうの場合

吐き気、おう吐がある場合

呼吸が苦しきおお向けにできない場合

○その場で救急隊を待つ

チームワークが大切

準備

○緊急時の対応の準備

○エピベン®の準備

○AEDの準備

連絡

○救急車の要請

○管理職を呼ぶ

○保護者への連絡

記録

○観察を開始時間

○エピベン®を使用した時間

○5分ごとの症状

○内服薬を飲んだ時間

その他

○ほかの子供への対応

○救急車の誘導

エピベン®の使い方

① ケースから取り出す

② 利き手でグーで握る

③ 青い安全キャップを外す

④ 太ももの外側に注射「カチッ」と音がするまで押し当て、五秒数える

⑤ オレンジ色のニードルカバーののびていることを確認する

本人が注射できない場合
衣類の上からも打つことができる
ポケットの中身を確認

使用前 使用中

食物アレルギーの症状 (1)

■皮膚の症状:

・かゆみ、むくみ、じんましん、皮膚が赤くなる

じんましん

皮膚が赤くなる



学校におけるアレルギー疾患対応の基本的な考え方



文部科学省・(公財)日本学校保健会

文部科学省・(公財)日本学校保健会

学校内での役割分担

発見者「観察」

教職員 A 「準備」

○「緊急時対応」を持ってくる

○エピベン®の準備

○AEDの準備

○エピベン®の使用または介助

○心肺蘇(そ)生やAEDの使用

教職員 B 「連絡」

○救急車を要請する (119 番通報)

○管理者を呼ぶ

○保護者への連絡

○さらに人を集める(校内放送)

教職員 C 「記録」

○観察を開始した時刻を記録

○エピベン®を使用した時刻を記録

○内服薬を飲んだ時刻を記録

○5分ごとに症状を記録

管理職「管理」

○ほかの子供への対応

○救急車の誘導

○エピベン®の使用または介助

○心肺蘇(そ)生やAEDの使用

○その他

○ほかの子供への対応

○救急車の誘導

○エピベン®の使用または介助

○心肺蘇(そ)生やAEDの使用

○その他

○ほかの子供への対応

○救急車の誘導

○エピベン®の使用または介助

○心肺蘇(そ)生やAEDの使用

○その他

食物アレルギー対応の課題

- 手引きに基づいた対応の徹底
- 職員研修の質の確保
- 管理職の意識や理解の問題
- 教職員の意識や理解の問題
- 学校生活管理指導表に関すること
- 学校給食における完全除去対応の導入について

